

ピーマン産地における天敵昆虫を中心とした IPM 技術の普及

鹿行農林事務所 経営・普及部門(銚田地域農業改良普及センター)

鹿島南部地域（神栖市・鹿嶋市）は、年平均気温 15℃前後の温暖な気候のもと、周年でピーマンを生産出荷する全国 1 位のピーマン産地です。生産組織は、J Aしおさい青果物生産部会、波崎青販部会を中心に鹿島南部青販連等の任意組合があり、促成、半促成、抑制の 3 作型で周年出荷を行っています。

天敵昆虫は平成 13 年ごろから試験的な導入が始まり、鹿行農林事務所経営・普及部門では、生産組織、J A、鹿島地帯特産指導所などの関係機関と連携し、天敵昆虫を中心とした IPM 技術の体系化、普及・拡大に取り組んできました。

天敵昆虫利用技術の実証と効果の確認

平成 21 ～ 24 年度まで天敵昆虫を中心とした IPM 技術について、技術の確立を図りました。本年度は硫黄くん煙によるうどんこ病防除について検討しました。

その結果、うどんこ病に対する硫黄くん煙剤の効果が確認でき、天敵（スワルスキーカブリダニ）への影響もほとんどないことが確認できました。



硫黄くん煙によるうどんこ病防除



IPM 技術体系マニュアル

IPM 技術体系を組み立てマニュアル化

これまでの実証結果を基に天敵昆虫を中心とした IPM 技術の体系化を図り、半促成・抑制栽培についてマニュアルを作成しました。マニュアルは初めて天敵昆虫を導入する農家でも失敗しないようにスケジュール防除となっており、天敵の導入が増加し始めた生産組織を対象に活用を図っていく予定です。

天敵利用技術の平準化を推進

天敵利用技術の平準化を図るため、天敵の導入が増加し始めた生産組織に対し、講習会、圃場巡回、アンケート調査を実施し、技術の導入推進を図りました。

また、若手後継者を対象とした学習会で IPM 技術に関する講義や現地見学を行いました。その結果、天敵の導入面積は昨年より 51ha（昨年比 136%）増加しました。（平成 25 年 3 月現在 194ha）



任意組合を対象とした講習会